

身近な情報を実践活動に生かす特別活動 —1年「ようこそ！秋のテーマパーク」の実践を通して—

名古屋市立G小学校

1 研究のねらい

私は、自分の思いを表現しながら仲間と協力して活動することができる児童を育てたい。

本学級の1年生の児童は、よりよい学級に向けて、「優しい気持ちが大切」「友達をたくさんつくりたい」と発言するなど前向きな思いをもっている。私は、この先も多くの児童にそれらの思いをもち続けてほしいと願っている。そのために、よりよい学級に向けた指針となる学級目標は、とても重要である。しかし、1年生にとって漠然とした学級目標では、行動することが困難である。そこで、学級目標を細分化し、具体的な行動目標を設定していく。そして、さらに自分や友達の行動のよいところを知り、まねることは、児童がよりよい学級に向けて行動する一助となると考え、自分や友達のよい行動の思いの根源を理解し、深めることができるとよいと考えた。

そこで、次の2点に重点を置き、実践に取り組むことにした。

- よりよい学級に向けて行動目標を明確にすること
- よりよい学級に向けて行動した児童の思いを可視化し、学級全体で共有すること

2 研究の内容（対象：1年生27人 男子16人 女子11人）

(1) 基本的な考え

○ よりよい学級に向けて行動目標を明確にするための…1-1 オリジナル SDGs

よりよい世界を目指したSDGsの理念をよりよい学級づくりを目指した本実践に応用する。SDGsの17の目標と関連付けた、よりよい学級を目指すための行動目標を整理し可視化（右の図）する。そして、それらの行動目標を意識した活動を一人一役の当番活動や他者との関わりが求められる係活動と関連付けて、活動を計画し実践していく。1年生という発達段階に配慮し、個から集団へと段階的に拡大することで、活動の質を高めていきたい。

【1-1 オリジナル SDGs】

○ よりよい学級に向けて行動した児童の思いを可視化し、学級全体で共有するための…1-1 がんばりメーター

児童が抱く漠然とした思いを丁寧に整理し、可視化していくことで、子どもたちの願いに迫った具体的な活動が生まれると考える。そこで、学級目標の達成に向けて日々、取り組んでいる当番活動や係活動を振り返る。その際、よりよい学級を目指すには、どんなことを意識した行動が必要なのかを明確にする。児童の「頑張る」という漠然とした思いの根源を具体的な活動と関連付けて考えることで可視化できると考えた。そして、「頑張る」を六つの要素（認め合い・目標・諦めない・協力・挑戦・準備）として項目立て、数値化し絵グラフで表す。この絵グラフを活用して、各要素を意識的に高めるように、活動内容を計画、実践し、振り返ることで、自分の思いを表現しながら仲間と協力して活動することができる児童を支えていきたい。



【絵グラフ『1-1 がんばりメーター』】

(2) 実践の流れ

統計的な手法を生かし、次のような流れで実践を進めていくことにした。

流れ	活動の場	活動の内容
とらえる	帰りの会	係ごとに、行動目標に対する現在の達成度を知る。
あつめる	学級活動	「頑張る」という言葉に込められた児童の思いを集める。
まとめる	休み時間	「頑張る」という言葉に込められた児童の思いを『1-1 がんばりメーター』に表す。
よみとる	学級活動	『1-1 がんばりメーター』を基にして、次の活動について話し合う。
生かす	学級活動・朝の会・ 休み時間	『秋のテーマパーク』を計画し、実行する。

(3) 実践の内容（2学期の実践）

① 題材名

「ようこそ！秋のテーマパーク」を成功させよう

② 目 標

よりよい学級に向けて行動することができるようにする。また、よりよい学級に向けて行動した自分や友達の思いを知ることができるようにする。

③ 統計教育上の指導目標

『1-1 がんばりメーター』から自分や友達の思いを知り、『1-1 がんばりメーター』を基に、自分たちが次に意識することを話し合って決めることができるようにする。

④ 実際の活動

【とらえる】…帰りの会 **係ごとに、行動目標に対する現在の達成度を知る**

2学期に入り、1学期から取り組んできた1-1オリジナルSDGs（学級をよりよくするための17の行動目標）の活動内容を精選した。17の目標の中から、学級目標の達成に向けて、より大切にしたい目標について児童と話し合い、六つに絞った。そして、その六つの目標の達成を目指して、重点的に活動するグループを係活動として立ち上げた。児童は、目標を意識して取り組みたい係に属し、活動を計画し、実践を積み重ねることになった。



【活動を振り返っている様子】

9月下旬、各係の活動の達成度を学級全体で振り返ることにした。振り返りでは、係ごとに、頑張ったと思う係の（SDGs）瓶に評価としてドングリを入れるようにした。各係が持つドングリは4個で、1個は、自分のグループに入れ、残りの3個を他の係に分けて入れるようにした。特に頑張ったと思うところには、2個以上のドングリを入れてもよいこととした。（以下、ドングリ貯金）

振り返り後は、他の係から自分たちの係の頑張りを評価されたことで、多くの児童がうれしそうな表情をしていた。「次は、もっともらえるように頑張りたい」と意欲が高まる係もあるなど、他の係から評価され、瓶にドングリが貯まっていく様子をうれしそうに見つめる児童の姿が見られた。

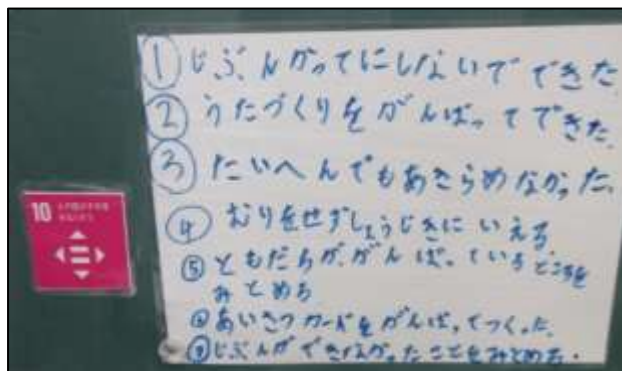


【ドングリが貯まっている様子】

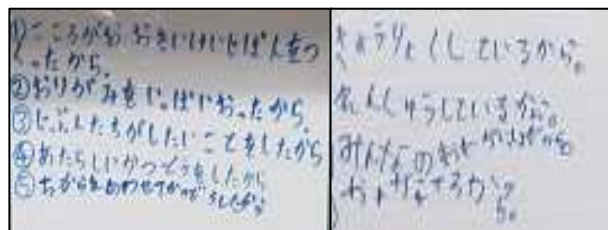
10月下旬、2回目のドングリ貯金の様子を基に係活動の振り返りを行った。どの係にも前回よりも更にドングリが貯まっていた。その中で、特に多くのドングリが貯まった係が二つあった。「どうして、こんなにたくさんのドングリが貯まったのだろう」と児童に投げ掛けた。すると、「頑張っていたから」「他の係よりもすごかったから」という言葉が聞こえてきた。

【あつめる】…学級活動 「頑張る」という言葉に込められた児童の思いを集める

そこで、「どんなところを頑張っていたのだろう」と児童に投げ掛け、振り返ることにした。まず、一人一人、「自分の係が頑張ったこと」と、「他の係が頑張ったこと」を振り返った。すると、「遊びを決めたところ」「体操を練習したところ」「歌をつくったところ」と具体的な活動例と関連付けながら、多くの意見を記述する姿が見られた。その後、係ごとに集まり、一人一人の考えを伝え合った。そして、係ごとに「頑張った」という漠然とした言葉を「大変でも諦めなかった」というように具体的な言葉で補足しながら、右上のようにホワイトボードへ書き込んだ。他にも「認め合っていること」「あいさつ運動という活動をしたこと」など多くの考えが出された。児童は、黒板に貼ったホワイトボードを見て、「頑張る」には、係によって様々な見方や考え方があることに気付き、「A係とC係が同じことを書いている」「『諦めない』は、A係しかないよ」など、その共通点や自分の係になかった点に興味を抱いた様子であった。



【A 係の振り返りの記述】



【各係の振り返りが書かれたホワイトボード】

【まとめる】…休み時間 「頑張る」という言葉に込められた児童の思いを『1-1 がんばりメーター』に表す

休み時間になっても、多くの児童がホワイトボードの周りに集まっていた。ホワイトボードを見て、「気になったところがありますか？」と投げ掛けた。すると、「ほとんどの係に協力って言葉があるよ」と答え、その数を数えていた。そこで、「バラバラになっている考えをまとめてみよう」と声を掛けた。多くの児童が賛同し、計画委員を立てることになった。

早速、計画委員の児童は、似ている言葉を探し始めた。一つ一つに印をつけながら、自由帳に仲間分けをしていった。こうして、大きく六つ（認め合い・目標・諦めない・協力・挑戦・準備）の要素に分類できることに気付いた。分類し、各項目の数を数えた児童に「どうしたら、もっと見やすくなるかな？算数でやったグラフを覚えている？」と助言した。すると、計画委員の児童は、「絵グラフだね！」と



【1-1 がんばりメーター】

各項目の言葉に合う絵を考え始めた。算数の教科書を持ち出し、絵グラフを参考にしながら、制作していった。制作する中で、「この6個の言葉を掛け声みたいにしたら、みんな分かりやすいと思う」と言葉の書き方を工夫したり、「5で線を引いたほうが分かりやすいよね」と学習したことを生かしたりしながら、各係の頑張りを具現化した「1-1 がんばりメーター」を完成させた。

【よみとる】…学級活動 『1-1 がんばりメーター』を基にして、次の活動について話し合う

各係の振り返りが書かれたホワイトボードと完成した『1-1 がんばりメーター』を学級全体に紹介し学級会を行った。【以下、『1-1 がんばりメーター』からよみとる話合い】

- T : 10月の最後に、係で頑張ることについて考えたのを覚えていますか？その時に出てきた考えや思いを分かりやすくまとめたのが、このグラフです。このグラフを見て、何か気付いたことはありますか？
- C1 : 「一緒に」は王冠が付いているから全グループが協力しているんだね。
- C2 : 「ねばろう」とか「いいね」が少ない。（その他多数の同様の意見が続けて出る）
- C3 : 「一緒に」は大切だって、みんな分かっているから多いと思う。
- C4 : 「ねばろう」は1個で、「いいね」は2個で、「じゅんぴだ」は3個って感じで、一個ずつ増えている。なんか階段みたい。
- C5 : 確かに！（多数賛同する）
- C6 : 頑張るは、なんか階段みたいにだんだんになっているのかもしれないよ。
- T : そうだね。確かに一つずつ増えているね。他に何か気付いたことはありますか？
- C7 : 私たちの係は、6個全部あります。
- C8 : ぼくたちの係は、「一緒に」と「やってみよう」と「目指そう」があります。
- C9 : みんな「一緒に」があって、次は「やってみよう」「目指そう」って感じ。「ねばろう」は最後かな。
- T : なるほど。まず、どの係も「一緒に」から始まって、「やってみよう」「目指そう」「準備だ」のようにつながっているということだね。
- C10 : うん。そうだと思う！（その他多数がうなずくなど、共感している）

学級会では、王冠が付いている「一緒に」に注目し、みんなが協力の大切さに気付いている発言や数が少ないものに注目した発言が多くあった。グラフのよみとるを進める中で、6要素の数が段階的に増えている様子に気付いた児童が現れると、自分たちの係の振り返りと関連付けて考えるようになった。そして、「一緒に」を意識して取り組むことから段階的に必要な要素を獲得していくと、自分たちも、みんなも満足する活動になることへの気付きが広がっていった。その後、「一緒に」に注目し、力を合わせるためには、何が必要かについての話合いに移行した。

- T : これまでは、各係でいろいろな取り組みを考えて活動してきましたね。次は、みんなの力を集めて、みんなで何か一つのことをやってみませんか？
- C11 : やってみたい（多数の同様の意見が次々に出る）
- T : 11月に幼稚園との交流会があります。幼稚園の子を招待して、実際にみんなで遊びます。
- C12 : やってみたい！！（多くの賛同する声があがる）
- T : では、そこで「みんなで力を合わせる」を大切に活動するためには、何が必要だと思いますか？
- C13 : 役割分担です！
- C14 : 一人一人が頑張ること。
- C15 : 準備とかみんながしっかりとすること（その他多数の同様の意見）
- T : そうだね。一人一人が役割をもつこと、その役割をみんながしっかりとやっていくことが必要ですね。幼稚園との交流会で、どんな役割があるといいかな？
- C16 : 遊びを考える人。
- C17 : 招待状とか飾りとか作る人
- C18 : 案内する人
（その他、様々な役割を発表した）
- T : たくさんの役割が見付かったね。この役割をみんなで分けて、一人一人がしっかり頑張っていくことで幼稚園との交流会を成功させたいですね。
- C19 : はい。（その他多数がうなずくなど、共感している）

(T=先生、C=子ども)

話合いの結果、「一緒に」を意識して力を合わせるためには、役割分担をすることが大切であると多くの児童が気付いている様子であった。そして、幼稚園との交流会「秋のテーマパーク」に向けて、必要な役割について話し合うことになった。児童は、「季節を生かした遊びの計画」、「教室の整備」、「プレゼント制作」、「招待状やチラシ、看板の制作」など必要な役割を見付けることができた。この交流会の成功を目指して、学級のみんがこれまでに意識して取り組んできた「一緒に」という強みを最大限に生かし、その他、五つの要素全てに王冠をつけることを目指して、企画を進めていくことになった。

【生かす】…学級活動・朝の会・休み時間 『ようこそ！秋のテーマパーク』を計画し、実行する

幼稚園との交流会、「ようこそ！秋のテーマパーク」に向けて、4種類のグループを立ち上げての具体的な活動内容の話合いが始まった。私は、それぞれのグループが自信をもって企画を進めていくことができるようにするために、タブレットPCを活用して、役割分担などの準備を支援していくことにした。児童は、これまでの活動の経験を生かしながら、「私は、これがやりたい。〇〇さんは？」「あとは何がいるかな？」と互いの思いを伝え合いながら、一生懸命に考える姿が見られた。

- ①遊びグループ
→遊びの計画担当
- ②教室デザイングループ
→教室の飾りつけ担当
- ③プレゼントグループ
→お土産づくり担当
- ④案内グループ
→招待状やチラシ作り
当日の案内担当

【4種類のグループ】

① 遊びグループの企画「ドングリ釣り」、「ドングリ迷路」、「ドングリボウリング」

遊びグループの8人の児童は、まず、ドングリや木の葉、マツぼっくりなど、これまでに校外学習に出掛けて、集めてきた秋の素材を見ながら、どんな遊びができそうか考え始めた。生活科の教科書やインターネットの情報、図書室の本を参考にしながら、遊びを三つに絞っていった。そして、それぞれが取り組みたい遊びを一つ選択し担当を決定した。

「ドングリ釣り」グループでは、拾ってきた木を竿にして、タコ糸に丸めたテープをつけて、釣り竿を完成させた。釣り場には、顔が描かれたドングリや木の葉がたくさんあり、「釣ったものは、二つまで持つて帰ることができるようにしようよ」と園児が喜んでくれることを想像したり、「難しすぎると、幼稚園の子たちが悲しくなるよ」と園児たちの気持ちに寄り添ったりする会話が聞こえてきた。



【運営する児童の様子】

当日は、「やったあ！釣れたよ！」「持って帰っていいの？」と目を輝かせている園児たちの姿が教室に広がっていた。「うまく釣れなかったら、テープを付け替えるよ」と優しく声を掛ける児童の姿も見られ、頼もしさを感じることができた。

② 教室デザイングループの企画

教室デザイングループの6人の児童は、「看板作り」と「教室飾り」のチームに分かれて、準備を進めることになった。「看板作り」担当の児童は、模造紙にカラーテープやカラーペンを使ってテーマパークが楽しくなるような飾りを製作していった。「みんなに似顔絵を描いてもらって、看板に貼ろうよ」と、みんなの思いがたくさん詰まった、秋のテーマパークを象徴するような看板に仕上げることができた。そして、その準備を終えると、「秋の音を楽しめるように、楽器を作りたい」と、パックやトレイなど家から必要な材料を持ってきて、最後の最後までオリジナルの楽器作りの準備を進めていった。



【看板を作る児童の様子】

当日は、「この楽器を鳴らしてみて」と園児に声を掛け、園児が遊びを待っている時間も楽しめるように工夫する児童の姿が見られた。

③ プレゼントグループの企画

プレゼントグループ3人の児童は、ドングリとマツぼっくりを使って、クリスマスツリーの制作を始めた。ドングリを土台に、マツぼっくりを接着して飾り付けをしようとしたが、思い通りに接着ができず、作業が停滞していた。しかし、「ペットボトルのキャップにドングリやマツぼっくりを接着するとよい」さらには「残った色紙を小さくちぎって飾るときれいになる」というアイデアを家の人や友達からもらった。その後は、ドングリに顔を描く人、ペットボトルキャップにドングリ

やマツぼっくりを接着する人、飾り付ける人と自ら役割分担をしてから作業を進めた。さらに、「一人一個にする?」「交換してほしいって言われたら、どうする?」と交流会本番を想定して、店の運営の練習も進めていった。

当日は、緊張した表情で、「どうぞ。大切にね」と声を掛けていた。気持ちに余裕が出てくると、「こっちが、おすすめですよ」と笑顔で思いを園児に伝える様子も見られるようになっていった。



【プレゼントを渡す児童の様子】

④ 案内グループの企画

案内グループ 10 人の児童は、招待状やチラシを担当するチーム (5 人) と、当日の案内バスを作るチーム (5 人) に分かれて準備を進めた。招待状・チラシチームは、絵を描く人、文章を書く人、色を塗る人に役割を細かく分けて作業を進めた。園児と幼稚園の先生の分、合わせて約 30 人分を丁寧に作り上げていった。「小枝をフレームにする?」「ドングリもつけて、秋っぽくしたいね」と工夫を凝らす姿も多く見られた。



【招待状を作る児童の様子】

当日は、自分たちが作った招待状を持って遊びに来てくれた園児を見付けて、「これ、私が書いたよ」「今日は来てくれてありがとう」と思いを伝えている姿が見られた。園児や先生たちからも「すてきな招待状をありがとう」と言われ、児童たちも笑顔がこぼれていた。

(4) 実践の成果と課題 (成果：○課題：●)

実践後、「1-1 がんばりメーター」の 6 要素について、個別のアンケート (できた・すこしできた・あまりできなかった・できなかったの 4 段階評価) を行った。その結果、右のグラフのようになった。(4 人ができたと回答 = 1 アイコンとした)「一緒に」を意識して、一人一人が役割をもち、仲間と力を合わせることができたことから、他の 5 要素にも影響したと考え、以下のような成果と課題をまとめた。



【アンケートの結果】

- 行動目標を設定したことで、多くの児童は、一人一人が役割をもち、その役割を果たしていくことが、活動を計画し実践する、主体的に活動を進める児童の姿につながった。
- 「頑張る」という言葉を可視化したことで、多くの児童は、一緒に力を合わせることの大切さに気づき、目標をもつことや挑戦すること、結果的に、粘り強く取り組むことにもつながっていくことを体験的に理解できた。
- 各係の評価と個別の評価では、正確な変容を見取することはできない。今後は、集会活動に限らず、日常生活においても、『1-1 がんばりメーター』を活用し、個々の頑張りの変容や学級全体の変容を適切に扱っていく必要がある。

3 研究のまとめ

『秋のテーマパーク』後、突然、一人の児童が転校することになった。その事実を知った多くの児童から「最後に一緒に遊びたい」「手紙とかプレゼントを渡したい」などという会話が教室中から聞こえてきた。児童のこのような姿に、私は目頭が熱くなった。「Aさんは、このキャラクター好きだね」、「ぼくは、手紙の背景を作るよ」と一人の仲間のことを真剣に考え、大切にしているからこそ聞くことができる言葉が彼らからあふれていた。今後も、自分の思いを表現しながら、仲間と協力して活動することができる児童を目指して、支え続けていきたい。